

平成 23 年 6 月 7 (火) 活動報告 報告者：太田

<活動内容>

- 8:00～ 盛岡のホテルから車で移動
- 10:00 陸前高田市災害ボランティアセンターで、他の活動者 2 名下車
- 12:00 大槌町ボランティアセンター着
- 13:00 在宅ニーズ調査（大槌町社協：加治木さんと同行）
- 16:00～17:00 書類整理
- 17:00～17:15 ミーティング（本日の活動報告、明日の予定）

今日の午前中は車での移動の半日だった。朝 8 時に盛岡駅前のホテルを出発し、まずは神奈川県からの 2 名の活動地である陸前高田市を目指した。

東北自動車道と釜石自動車道を経由する。周りのはのどかな田園地帯と緑豊かな山に囲まれており、地震の爪跡を車窓から感じることは無かった。

県道に入り、東和町を通っていると、ある小学校の体育館のガラス窓すべてを使って『復興支援ありがとう』と大きな文字での張り紙があった。また 2～3 km 進んだ道端で、手作りで幅 40 cm 高さ 70 cm ぐらいの木の板に『救援隊のみなさんありがとう』と書かれた立て板があり、自衛隊や救援の方々への感謝の気持ちがあふれ出ている、ジーンと暖かさを感じた。

車は一級河川である猿ヶ石川や二級河川の小股川沿いに山の谷間を沿って進んでいると、東北電力世田米発電所と他 1 か所の水力発電所があった。原子力発電所の問題を日々ニュースで聞いている為か、水力発電所が頼もしく感じた。

陸前高田市入り、陸前高田市災害ボランティアセンターに 10 時頃到着した。海岸線からは少し離れた山あいにはプレハブを 3 つ繋げた建物で、10 人ぐらいの方がおられた。そこでこれから 2 週間活動される神奈川の女性 2 名を下ろす。

5 分ぐらいして、陸前高田市の市街地に入った。津波により沿岸船から私の目測で、約 2 ㎞四方すべてが壊滅状態で、建物はほぼ全てが無くなっていた。比較的復興活動が進んでおり、瓦礫、鉄骨、自動車、木材などが分けられて高く山積みになれ、平地の場所が多くみられた。

次に大船渡に入った。ここは陸前高田と違い、瓦礫がもとの場所で小山に積み重なっており、復興が進んでいない様子が伺えた。釜石市の鶴住居地区では平地となった場所に赤い旗が各所に立っていた。全社協の吉村さんに何か聞くと、旗には土地の所有者の名前と今いる所の住所が書かれており、所有を示す旗とのこと。

そして目的地の大槌町に入った。吉村さん曰く、ずいぶんと復興が進んでいるとのこと、町の様子も瓦礫がかなり撤去され、平地が多くみられた。ただ、他の地町村との違いは残された建物も黒くすすけていたり、周りの山の麓も黒くすすけていた。吉村さんに聞くと、震災直後に火災が発生し、津波により木材が燃えたまま広範囲に火災を広げたとのこと。確かに、海岸部の災害地の半分以上が黒くすすけている様子が伺えた。

<訪問調査活動>

午後より、大槌社協の加治木さんに同行して避難所 3 か所と、在宅 5 か所を訪問した。

避難所には先日配布した大槌町災害ボランティアセンターだよりに誤解を生じる記載があった為、訂正文を渡しに行った。

3か所の避難所は集落の集会場であったり、会社の敷地内のプレハブ、小学校の跡地にできた地区の活動センターであったりと避難人数や避難所の成り立ちに違いがあった。

3つの避難所ともに入口で代表の方に事情の説明とお詫びをし、みんなに伝えて頂くようお願いをした。避難所の中には入らなかったのが様子は伺うことはできなかった。

その後、大槌町でも山間部である金沢地区に車で移動し、4軒を訪問調査した。4軒ともライフラインに問題なく、特に困ったことは無いとのことだった。バスが通っていたり、週1回は魚の訪問販売があるとのこと。

(ケース1) 復興支援の人で不足で忙しく働いている夫

県道に僅かにガードレールが途切れがあり、県道の下を流れる川に続く階段を下り、川を人1人が渡れる橋が架かっている。その橋を渡り少し登ると1軒の家がある。

奥様がおられ、社協から実態調査に来ましたと伝えたと、心良く話をしてくれた。夫婦はともに60歳。今は2人で暮らしている。4月ぐらいまでは被災に合った方が避難されていたが、今はその方々も娘の所や親類の所に移って行ったとのこと。

夫は復興の為、ブルトーザーの運転手として忙しく働いているとのこと。少し下痢症状があったが、人手不足の為休むことができず、薬を飲んで仕事に行っているとのこと。加治木さんより、もし下痢症状が続くようであれば受診をすることを勧めると、奥様も十分に分かっている様子。奥様からも特に困っていることは無いとのこと。

実家は安渡1丁目にあったが津波で全壊したが、弟や妹は無事で、避難所で暮らしている。チリ地震の時にも津波に合ったとのこと。

奥様も元気な様子が見られ、自力での生活が成り立っており、支援の必要性は無いと判断し、挨拶をして後にした。

<明日の予定>

AM: 今まで調査した資料データの打ち込み作業

PM: 様子を見て大田さんと交代してのニーズ調査